

第20回活動報告と、今年の取り組みについて

今年最後となる通算20回目の復興支援プロジェクト活動を12月8日、6人の職員が参加して宮城県東松島市で実施しました。

前日の7日夕刻に、三陸沖を震源とする震度5弱の地震が発生し、大震災後初めてとなる津波警報が発令されました。現地ですその時の様子を伺うと、多くの方々が高台に避難をされたとのことでしたが、中にはパニック状態になってうまく行動ができなかったという例もお聞きました。震災から1年半が経った今でも、被災した人々には、あの日の壮絶な記憶が深く心に刻まれているようです。

この日は、継続的に交流のある地区を回り、生産者より提供いただいた新米を手渡しながら傾聴活動に取り組んだ他、地元住民有志より、全国からの支援に感謝をしたいと、復興の象徴である特産の岩カキを山ほど御馳走になり親睦を深めました。昨年は震災直後という状況から、ガレキの撤去や清掃活動に

取り組む機会が多かったのですが、一年が経った今年は、現地の方々に直接ふれあい、心に寄り添う活動をテーマに取り組んできました。

夏には西郷砂丘畑振興会の協力で、会長と専門部長自らが参加下さり、ネットメロン関連の復興支援イベントを催すこともできました。今でも現地に足を運ぶたびに「メロンがとても美味しかった」、「メロン農家のみなさんに直接お礼が言いたい」などとたくさんの方に喜ばれています。また、匿名で継続的に自家用の米を被災地用として提供下さっている生産者もいらっしやいます。JAの役員・生産者と一体となった運動に発展できたことは今年の特徴であり、大きな成果に繋がりました。冬期間は現地活動を休止して、来春から再び現地のニーズにあわせた活動を再開予定です。今年一年間、プロジェクトに関わって下さった全ての方々に感謝申し上げます。



第12回活動



第15回活動



第18回活動



第20回活動

【12/8 第20回活動参加者】 鈴木 大亮（総合戦略室）伊藤 千花子（企画総務課）井上 拓也（経理システム課）
星見 英朝（経理システム課）瀧本 啓（本店営業課）金内 恭子（本店営業課）